

回 覧



令和元年度

牛田・川除地区発掘ニュース

5月号

通算 12号

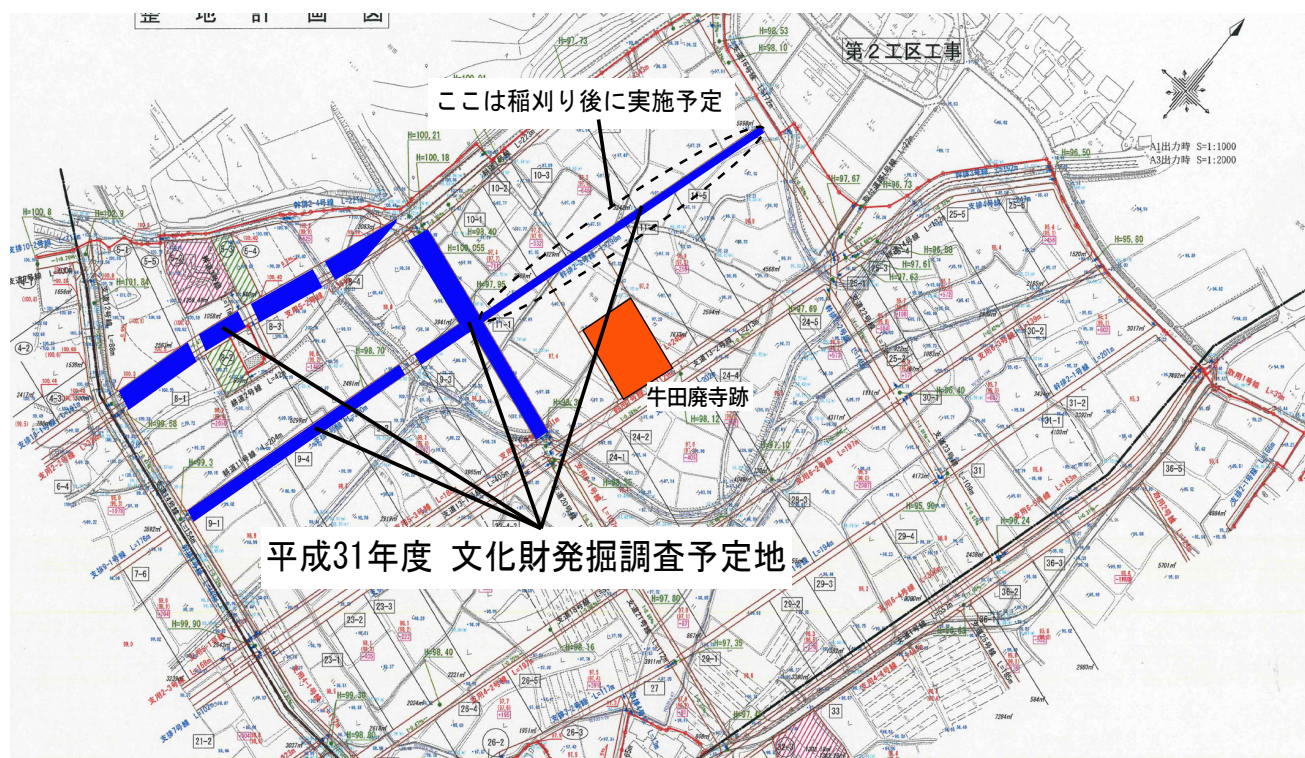
発掘調査開始のお知らせ

昨年度に引き続き、今年度も県営牛田・川除地区基盤整備事業に先立ち、埋蔵文化財の発掘調査を5月中旬から開始していきます。

今年度は下記の地図の場所で発掘調査を行います。調査前に表土掘削のため、大型の重機が5月中旬から現地に入る予定です。大変お騒がせしますが、ご理解ご協力のほどをよろしくお願い致します。

発掘調査の成果や地域の歴史を、皆様に紹介するため「牛田・川除地区発掘ニュース」を今年度も発行していきます。

今年1年、またよろしくお願いします。



平成31年度の発掘調査範囲図

(青色箇所での調査を実施します。5月中旬から重機が入ります。)

仏教遺物?? — 整理作業で見つかった^{ときん}塗金された金属片 —

平成30年度の発掘調査では、藤岡市で初となる古代寺院の牛田廃寺や140軒もの住居跡が発見され、遺物収納箱100箱を超える大量の土器や瓦が見つかりました。奈良・平安時代の牛田・川除地区は、藤岡市でも有数の大集落であったことがわかってきています。

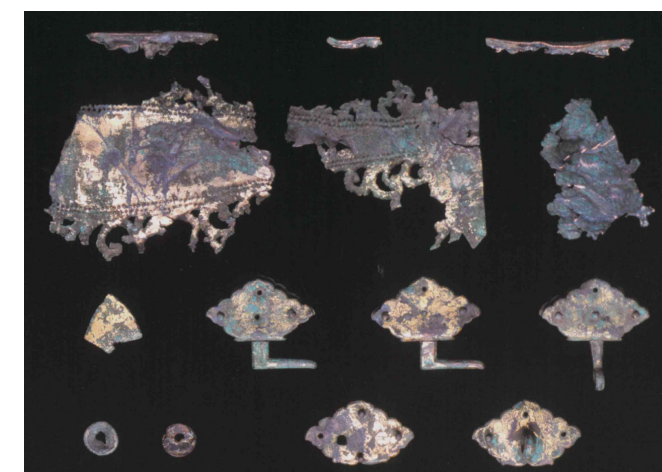
その整理作業を今年度から開始していますが、その中で牛田廃寺に関係があると思われる金属製品が見つっています。出土した鉄製品のクリーニングを行なった際に見つけたものですが、薄い銅製の板に金がメッキされたものです。出土したのは牛田廃寺からやや離れた住居跡内ですが、このような遺物は普通の住居からは通常出土しないものですので、牛田廃寺から持ち運ばれたものである可能性が高いです。

2cm程度の極めて小さい破片ですが、観察すると細かい線で文様が描かれ、金メッキされています。どのような用途のものかはわかりませんが、仏具などに^{ぶつぐ}取り付けられた飾り金具の可能性が考えられるでしょう。同じような特徴の金銅製の飾り金具が、前橋市山王廃寺で^{さんのはいじ}見つっています。

当時の牛田廃寺は、このような^{きら}煌びやかな仏具や仏像で飾られていたと思われます。



平成30年度の調査で見つかった金銅製の金属片



前橋市山王廃寺採集の金銅製飾り金具

牛田川除地区発掘ニュース5月号 通算12号
平成31年4月23日
発行：藤岡市教育委員会文化財保護課
埋蔵文化財係 担当：文挾
藤岡市白石1291-1（藤岡歴史館内）
TEL.0274-23-5997

回 覧



令和元年度

牛田・川除地区発掘ニュース

6 月 号

通算 13 号

発掘調査が始まりました

5月20日から今年度の発掘調査区に重機を入れ、発掘調査を開始しました。下の地図の青色部分が今年度の発掘調査区で、順番に重機を入れて、掘削を行う予定です。

遺跡は通常、土に埋もれています。効率的に作業を行うため、遺跡がある高さまでは重機で土を掘削し、そのあと人力で慎重に調査を行なっていきます。

調査は始まったばかりですが、住居や土坑などが発見されました。去年度に発掘調査を行なった集落の一部と思われ、集落の広がりが今年度の調査でより明らかになると考えられます。



重機での掘削の様子



今年度の発掘調査範囲図

(青色箇所の調査を実施します。5月中旬から重機が入り掘削を行なっています。)

遺跡の断面からわかること

遺跡は何百年何千年もかけて土に埋もれ現在の形になりますが、遺跡の地層の断面を観察することでどのように遺跡が埋没したのかを知ることができます。

地層は下から上に堆積するため、下の地層が古く、上が新しくなります。これを地質学では「^{ちそう だんめん}地層累重の法則」と言います。この法則と地層中に含まれる年代がわかる層（^{かぎそう}鍵層）を手掛かりにして遺跡の年代やどのように埋まったのかを推測できます。

川除屋敷裏遺跡 B 地点では、浅間山の噴火に伴って堆積した2つの火山灰層が見つかりました。As-A 軽石(天明3年 1783年)、As-B 軽石(天仁元年 1108年)の2つです。遺跡は As-B 軽石層にパックされる形でその下から見つかっていますので、遺跡の時期は As-B 軽石が降下する前であったことがわかります。As-B 軽石層の上からは遺跡は見つからず、As-B 軽石が降下してからは、現在と同様に水田として活用されていたようです。これは As-A 軽石が降った後も同じで、火山災害に見舞われたあとも水田を復旧し耕作を続けていたことが、遺跡の地層断面から読み取れます。



川除屋敷裏遺跡 B 地点の地層の断面

牛田川除地区発掘ニュース 6月号 通算 13 号
令和元年 5 月 27 日
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課
埋蔵文化財係 担当：文挾
藤岡市白石 1291-1 (藤岡歴史館内)
TEL:0274-23-5997

回 覧



令和元年度

牛田・川除地区発掘ニュース

7 月号

通算 14 号

★ 今月のニュース ★

5 月 20 日から重機を入れて掘削していましたが、梅雨に入ったため、一時休止しています。7 月には再開する予定です。ご迷惑をおかけしますが、宜しくお願い致します。

現在、重機での掘削が終わった下図の箇所から発掘調査を開始しています。去年と同様に古代の住居跡が見つっていますが、この場所では住居跡の分布はまばらです。昨年度発掘調査を行った尻無川の南側では足の踏み場が無いほどの住居跡が見つかったことから、やはり古代の牛田・川除地区の集落の中心は、尻無川より南であることがはっきりとしてきました。

火災にあった古代の^{しょうしつじゅうきょ}竪穴住居跡 — 焼失住居 —

遺跡から発掘される人々の住まいであった竪穴住居跡の中には、災害の痕跡がなまなましく残るものが時折発見されます。その 1 つに火災にあった焼失住居があります。

なぜ火災があったとわかるかというと、^{たてあなじゅうきょあと}竪穴住居跡の床面が火を受けたため赤く焼けていたり、屋根や柱などが燃えた炭が住居跡の中からたくさん見つかるからです。

現在発掘中の遺跡からも、焼失住居が 1 軒発見されました。調査の結果、出土の状況などからただ単に火事にあったとは思



現在発掘を行っている箇所と遺跡の分布

えない特徴がありました。1 つは床面がかなり赤く焼けているのですが、柱材のような大きな炭化した木材は出土していない点です。火事によってそのままならそのような木材も一緒に出土するでしょう。2 つ目は土器などの生活用具がほとんど残されていない点です。生活している最中に火事にあえば、生活道具である土器もそのまま住居の中に残されるでしょう。

これらのことから 2 つの仮説を立てられます。①火事があった後に住居跡の中を片付けた。②生活用具や柱材を回収した後に火事になったもしくは火をつけた。①と②、どちらも考えられますが、この住居は火災の後には使われていないようなので、使わなくなる住居をわざわざ片付けるとはやや考えづらいと言えます。そのため、②の可能性が高く、今回の場合は生活道具や柱材は再利用するため回収し、いらない廃材だけ燃やして処分したのかもしれませんが。

考古学ではこのように遺跡に残されたわずかな痕跡から人の行動や生活を復元していきます。



焼失住居跡の調査の様子



焼けて赤くなった床面

牛田川除地区発掘ニュース 7 月号 通算 14 号
令和元年 6 月 21 日
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課
埋蔵文化財係 担当：文挾
藤岡市白石 1291-1 (藤岡歴史館内)
TEL:0274-23-5997

回 覧



令和元年度

牛田・川除地区発掘ニュース

8月号

通算 15号

★ 今月のニュース ★

6月から調査を行っていた下図の赤い区画が、7月上旬に完了しました。現在はそれより南の青の区画の調査に着手しています。今年度は遺跡数が想定よりやや少なく、現在のところ順調に調査が進んでいます。そのため予定していた区画以外に緑の区画の調査にも着手する計画です。緑の区画全ての調査が完了できるかは未定ですが、できる限り調査を進めて行きたいと思います。

古代の水利用 – 石組みされた井戸の発見 –

人間の生活にとって水の確保は、今も昔も最も重要なことでした。日本で井戸が作られ始めるのは、弥生時代からでそれ以前の縄文時代では自然に流れる川や湧水を利用していました。

井戸を掘って水が得られるということは、自然の河川や湧水の近くでなくても集落を作り生活することが可能となるということです。

つまり自然環境に縛られず今まで住めなかった場所に住むことができるようになり、人間の行動や生産の範囲が格段に広がりました。

調査で見つかった井戸は河原石を積み上げ、石組みを施し強固に作られていました。下の写真は 1m 程度掘り下げた写真ですが、下に行くに従い、穴が^{すぼ}窄まっています。人力での発掘調査はここまでが限界でこれ以上掘り下げていませんが、まだ 1m 以上深くなると考えられます。今後、重機を使って断ち割り調査をする予定で、その時に井戸の深さが判明するはずです。

藤岡市上落合岡遺跡で同じような作りの井戸が見つっていますが、その井戸は石組みの下に^{きわく}木枠をはめ込んで水を汲めるようになっていました。作りが非常に似ているので、今回見つかった井戸にも木枠がある可能性が高いと思われます。

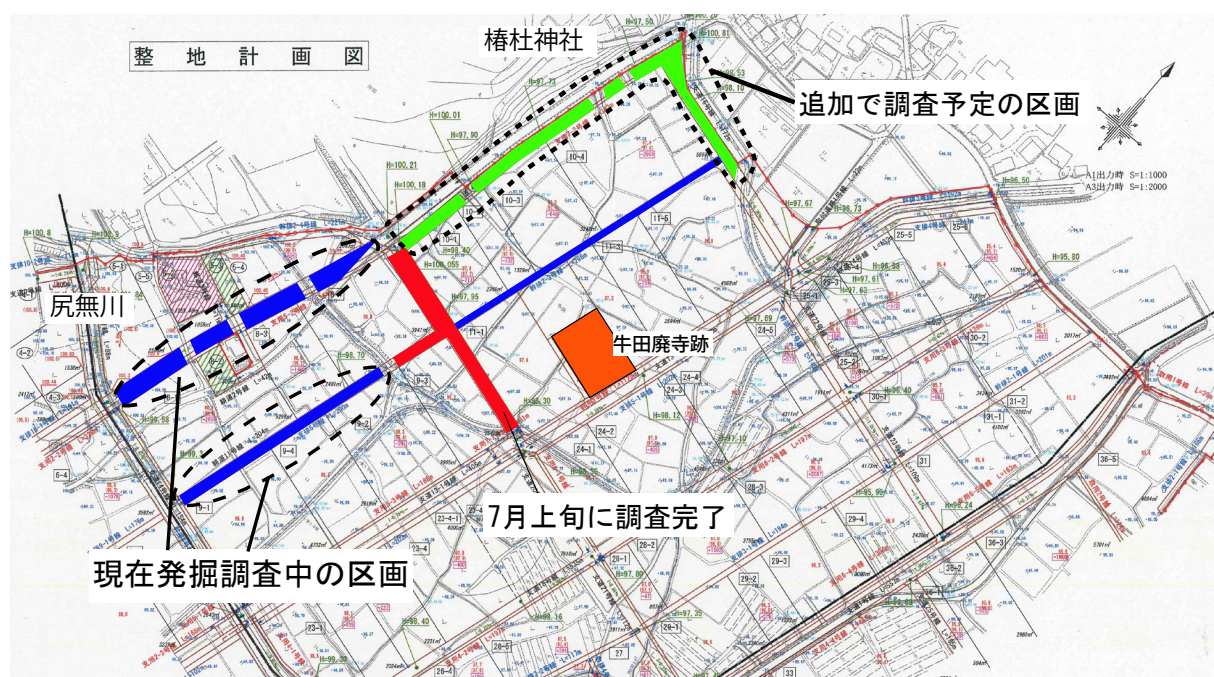
古代の牛田・川除に住んでいた人々がどのように水利用をしていたのかを知る上で、貴重な発見となりました。



調査で発見された古代の井戸



井戸の石組みのアップ



発掘調査が終了した箇所とこれから調査予定の区画

牛田川除地区発掘ニュース 8月号 通算 15号
令和元年 7月 22日
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課
埋蔵文化財係 担当：文挾
藤岡市白石 1291-1 (藤岡歴史館内)
TEL:0274-23-5997

回 覧



令和元年度

牛田・川除地区発掘ニュース

10月号

通算 17 号

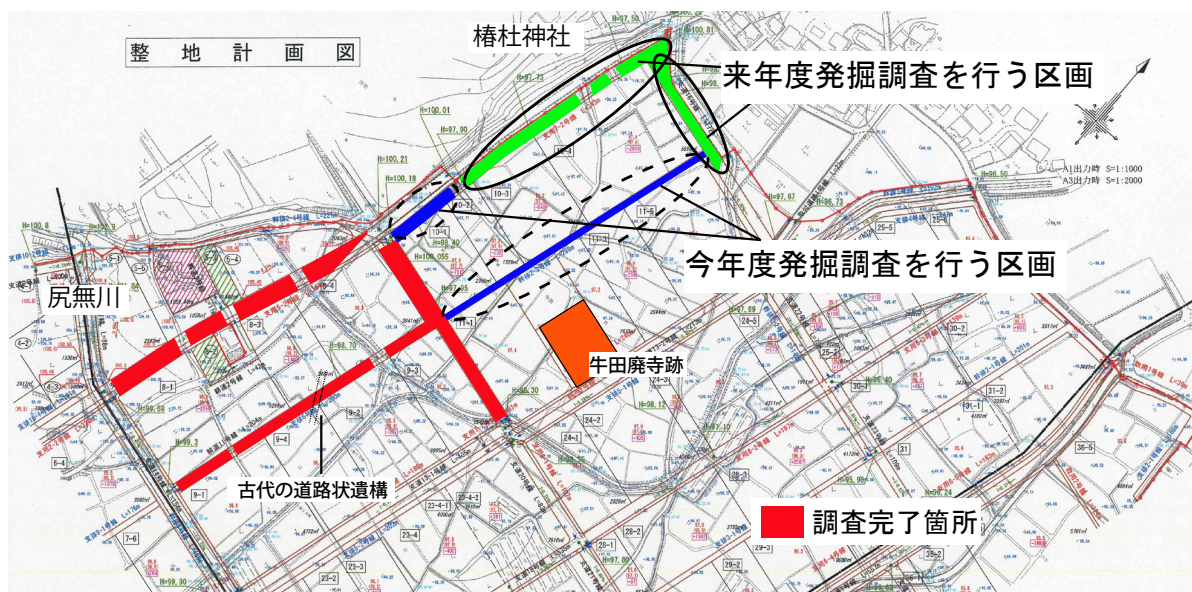
★ 今月のニュース ★

発掘調査を開始してはや5ヶ月が経ちました。現在、下の図の赤い部分の調査が完了しています。10月からは椿杜神社東側の調査区の調査を開始します。

椿杜神社下の調査区の掘削をしたところ、多くの住居跡が見つかりました。全ての箇所を今年度中に調査を行うことは難しいことから、今年度は下図の青色部分の箇所まで発掘調査を実施します。緑色の箇所については来年度調査を行う予定です。ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

どうろじょういこう 古代の道路状遺構が見つかりました

最近の調査では、下図の箇所で古代の道路状遺構が発見されました。調査区を横断する形で見つかったため、どこに向かう道なのかはよくわかりませんが、南東から北西方向に続いているようです。この場所はちょうど住居跡などが途切れる箇所で、古代集落の北端に位置して



発掘調査が終了した箇所とこれから調査予定の区画

います。

道路状遺構は、1108年に浅間山の噴火によって降下したAs-B軽石という火山灰で埋没していたことから、1108年以前に構築されたことがわかります。

堆積している火山灰をどかすと、こぶし大の石がぎっしり敷き詰められ、端には30cm程の大きな礫が並べられているのが確認されました（写真1）。1面目の石をどかすとその下にさらに細かい石を敷き詰めており、敷き石が2面確認されています（写真2）。敷き石が2面あるのが本来の構造なのか、改築に伴うものなのかは調査では判断できず、今後の課題といえます。2面目の石の下は波板状に底面が波打っており、その窪みにもぎっしり細かい石が突き固められていました。道路下部の補強や排水のための設備のようです（写真2）。

藤岡市や群馬県内でも道路状遺構はみつっていますが、大量の石を使用し、これほどしっかり作られた例はありません。新潟県佐渡国分寺跡では、古代寺院に伴ってたくさんの礫を使用した同様の道路状遺構が見つかりました。昨年、発見された牛田廃寺跡とこの道路状遺構がどのように結びつくのか、興味が尽きません。



写真1 道路状遺構 1面目



写真2 道路状遺構 2面目 波板状の底面

牛田川除地区発掘ニュース 10月号 通算 17 号
令和元年 9 月 26 日
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課
埋蔵文化財係 担当：文挾
藤岡市白石 1291 - 1（藤岡歴史館内）
TEL:0274-23-5997

回 覧



令和元年度

牛田・川除地区発掘ニュース

11月号

通算 18 号

★ 今月のニュース ★

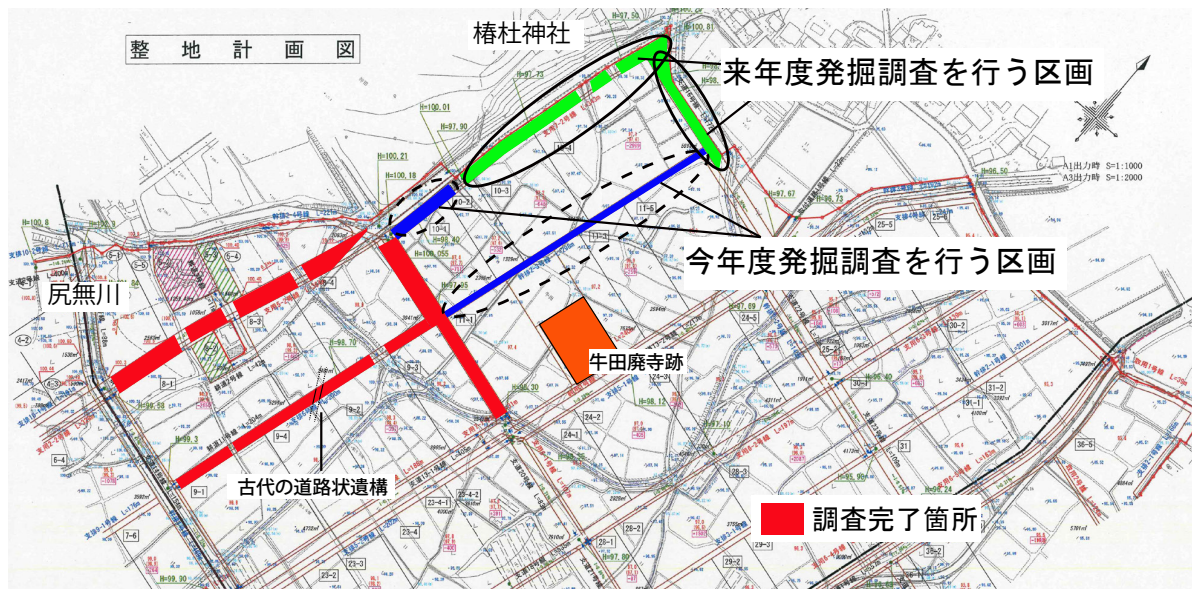
先日の台風 19 号では、記録的な大雨が降り、藤岡市内でも数多くの被害がありました。

現在調査を行なっている発掘調査区でも、大雨の影響で地下水位が上がり、椿杜神社がある藤岡台地からの湧水によって調査区が冠水してしまいました。現在は水中ポンプで水を汲み出しながら調査を行っている状況です。

現在の地形と古代の地形

藤岡市牛田・川除地区は、群馬県と埼玉県の県境を流れる神流川左岸の低地に位置しています。標高は 94 ～ 100m 程度で西側に控える藤岡台地とは最大で 10m 程の比高差があります。

平坦に見える牛田・川除地区ですが、この一帯を歩いてみるとわずかな地形の違いが確認できます（裏面地図参照：低地第 1 ～ 3 面）。発掘調査では、わずかな地形の違いによって、遺跡がなかったり、また遺跡の時期が違うことが明らかとなってきました。



発掘調査が終了した箇所とこれから調査予定の区画

牛田廃寺跡や多くの住居跡が見つかったのは、標高 97 ～ 98m 程度の低地第 2 面です。この箇所がもっとも遺跡が密集する区域で、主要な遺構はこの第 2 面で見つかりました。第 2 面は藤岡台地が東にせり出すやや奥まった場所に位置しています。

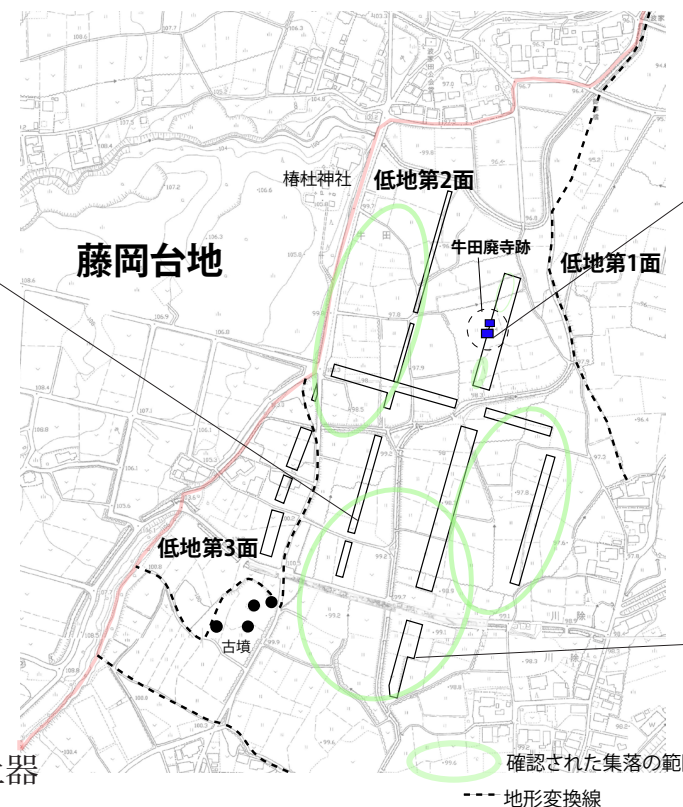
一方、神流川沿いの第 1 面（標高 94 ～ 97m）では遺跡は全く発見されていません。

また台地寄りの、もっとも高い第 3 面（標高 100 ～ 101m）では住居跡は少なく、第 2 面より新しい 10 世紀代の遺跡が構築されました。

発掘調査では 1000 年前の遺跡の分布と、現在の地表面の特徴が対応していることがわかりました。土が堆積し、現在は当時より地表面は 1 m 程度上がっていますが、古代も同じような特徴を持つ地形だったと考えられます。



道路状遺構



牛田廃寺跡



住居跡から見つかった土器



大量の住居跡群

各地点の標高値

第 1 面：約 94 ～ 97m

第 3 面：約 100 ～ 101m

第 2 面：約 97 ～ 98m

藤岡台地：105m ～

牛田川除地区発掘ニュース 11 月号 通算 18 号
令和元年 10 月 23 日
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課
埋蔵文化財係 担当：文挾
藤岡市白石 1291 - 1 (藤岡歴史館内)
TEL:0274-23-5997

回 覧



令和元年度

牛田・川除地区発掘ニュース

12月号

通算 19号

★ 今月のニュース ★

10月末で5ヵ月続いた発掘調査が完了しました。今年度の発掘調査はこれで終了し、出土品等の整理を行います。

地域の皆さまや発掘作業員の方々のご尽力により、無事に調査を完了することができました。改めて御礼申し上げます。

発掘調査は来年度以降も行う計画です。今後とも藤岡市の文化財保護にご理解ご協力をよろしくお願い致します。

地名の由来

それぞれの地域を表わす地名には、様々な由来や歴史があります。川除と牛田がある美九里地区（旧美九里村）は、明治22年町村制の施行により、根岸・本郷・川除・牛田・神田・矢場・保美・三本木・高山の九ヵ村が合併して生まれました。

この地域には、平安時代末に伊勢神宮の領地である高山御厨（註）が置かれていた地域で、様々な歴史遺産が豊富に存在しています。そのため「美九里」の名称は、御厨の「みくり」に新しい村を構成する九ヵ村を意味する「九つの里」の文字を当て、頭に「美」を用いて名付けられました。

（註）御厨とは・・・伊勢神宮を祭るための食料や布などを用意する神領で、税などは免除されました。高山御厨は1108年の浅間山の大噴火によりこの一帯が大きな被害を受けたため、神の加護を願い土地を復興させるため、天承元年（1131）に土地を伊勢神宮に寄進し、高山御厨となったと言われています。

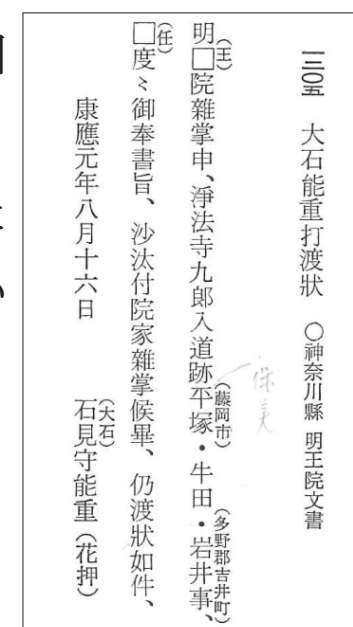
川除は神流川の端にあり、昔から神流川増水による数多くの災害に見舞われていました。享保13年（1728）には丈夫な土手を作る川除普請が行われ、安全に住めるようになりました。「川除」には川を避けるという安全への祈りが込められているのでしょう。

牛田の地名は、川除と同じように、この地域が神流川の洪水で氾濫しやすい場所で、水害などで失ったところを「失し処」と呼んで開発したという説。また牛を使って御厨の神田を耕作したため、などと言われています。

「牛田」は室町時代の康応元年（1389）の『大石能重打渡状』（神奈川県 鎌倉明王院文書）の中に記載がある古い地名です。この明王院文書では、「浄法寺九郎入道跡平塚・牛田・岩井事」と書かれており、浄法寺という名が出てきます。浄法寺は8世紀後半に鑑真の弟子である道忠が創建した寺院です。

牛田からは昨年度、8世紀前半に創建された牛田廃寺跡が新たに発見されました。発掘調査で出土した遺物からは浄法寺との関連は全くわかりませんが、古文書に記された地名を手がかりにして浄法寺と牛田に何らかの関係があったと言えそうです。

今回は最澄の東国布教の本拠地であり、緑野寺とも呼ばれた浄法寺を紹介していきたいと思います。



「大石能重打渡状」（明王院文書）
『群馬県史 資料編6 中世2』より抜粋



椿杜神社にある碑には、美九里地区の歴史が詳しく書かれています。

牛田川除地区発掘ニュース 12月号 通算 19号

令和元年 11月 19日

発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課

埋蔵文化財係 担当：文挾

藤岡市白石 1291-1（藤岡歴史館内）

TEL:0274-23-5997

回 覧



令和元年度

牛田・川除地区発掘ニュース

1月号

通算 20 号

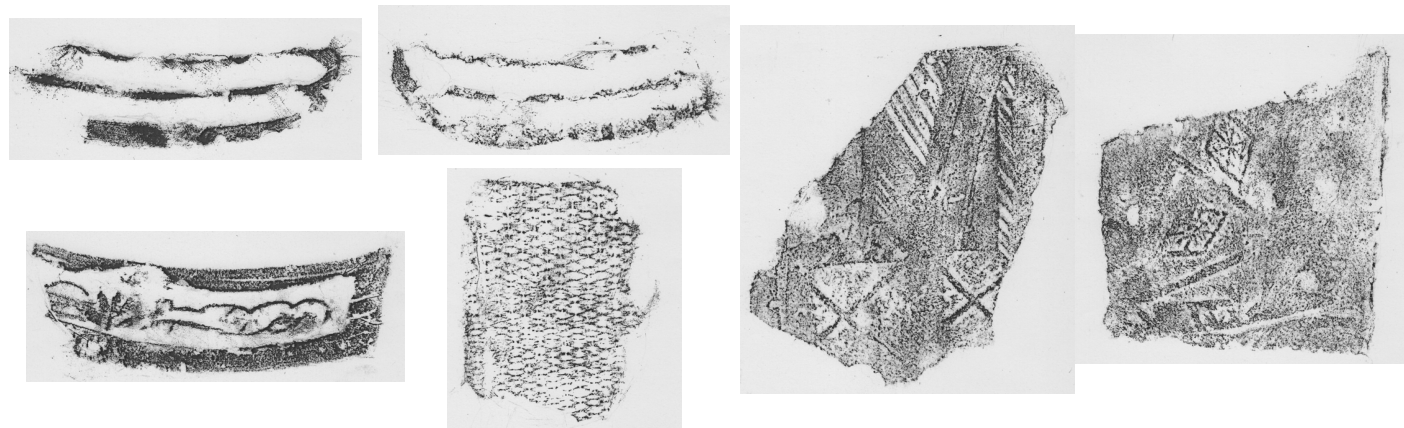
★ 今月のニュース ★

あけましておめでとうございます。昨年は元号が変わり、大きな変化があった年でした。本年も藤岡市の埋蔵文化財保護行政にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

千年続く寺 – 浄土院浄法寺 –

藤岡市の地名ともなっている浄法寺は、藤岡市浄法寺に所在する天台宗の寺院です。古くは緑野寺や浄院寺とも呼ばれていましたが、現在の正式名称は広厳山般若浄土院浄法寺で、地名と区別するため寺は浄土院と呼ばれるようになりました。

浄土院浄法寺は奈良時代末の延暦4年（785）に、中国から伝道のために来日した鑑真の弟子である道忠という僧によって開かれたと言われています。実際に現在の浄土院周辺からは8世紀後半の瓦が採集されており、8世紀後半にはこの周辺に古代寺院が建立されていたことは確実と言えるでしょう。実に1200年の歴史を持つ古刹（古い由緒ある寺）です。ただし戦国時代に後北条方の高山氏に攻められ、1552年に焼失してしまい、現在の寺は1556年に再建されました。



浄土院から採集された奈良・平安時代の瓦（松田 鎮氏 寄贈資料）

みどのじ 緑野寺のなぞ

歴史上で浄土院浄法寺は、平安時代に天台宗の開祖である最澄の東国布教の本拠地となって、極めて重要な役割を果たしたと言われており、その当時は緑野寺と呼ばれていました。

実は緑野寺（浄土院浄法寺）は、最初は別の場所にあり、神流川の流路の変遷によって現在の浄法寺に移ったとの考えがあります。その移転前の候補地の1つが神流川対岸の神川町にある伝緑野寺跡旧跡（県指定旧跡）です。発掘調査はされていませんが、昔から8世紀前半の瓦が採集されている遺跡で、城戸野（浄土野）廃寺とも呼ばれています。

城戸野廃寺は、昨年度新たに発見された牛田廃寺跡から南に2kmほど離れた神流川対岸にあります。牛田廃寺跡も8世紀前半に創建された寺院であるので、極近接した場所に同時期の寺院が併存していたことがわかっています。12月号で紹介した「大石能重打渡状」では、室町時代に浄法寺と牛田になんらかの関係性があったことがわかったので、牛田廃寺跡が緑野寺であったとも十分に考えられるでしょう。

詳細は今後の研究に委ねられますが、複雑な古代社会の動態が近年徐々に明らかになっていると言えるでしょう。



牛田廃寺と周辺の古代寺院の位置関係



伝緑野寺跡旧跡（城戸野廃寺）

牛田川除地区発掘ニュース1月号 通算 20 号
令和元年 12 月 20 日
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課
埋蔵文化財係 担当：文挾
藤岡市白石 1291 - 1（藤岡歴史館内）
TEL:0274-23-5997



令和元年度

牛田・川除地区発掘ニュース

2月号

通算21号

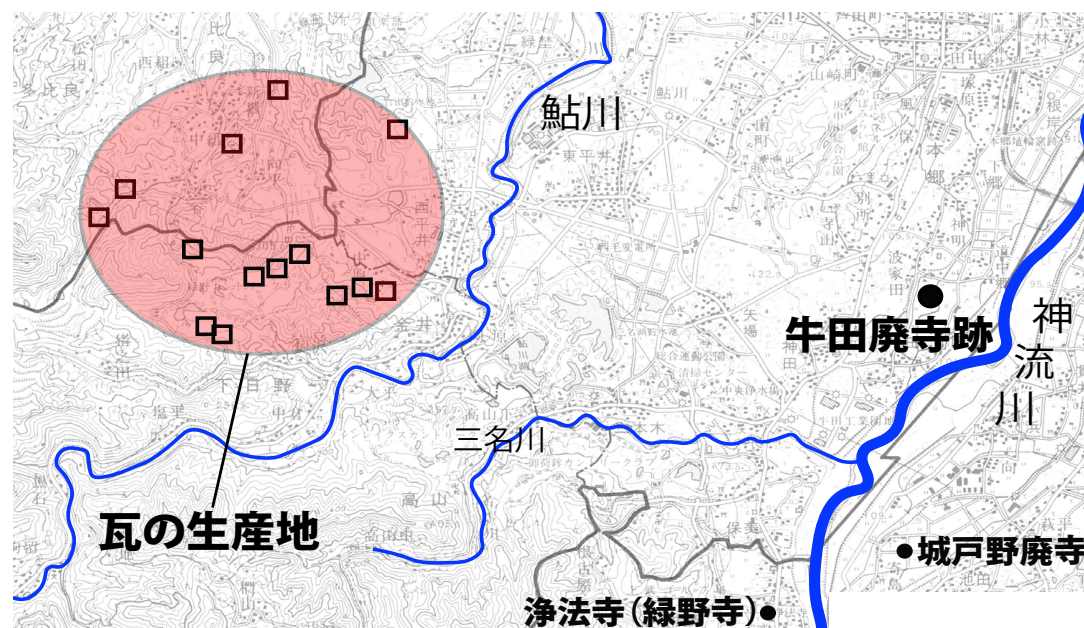
★ 今月のニュース ★

古代の瓦生産

瓦は6世紀末に仏教寺院の造営技術の一環で朝鮮半島から日本に伝わったと言われています。現代では、瓦は普通の住宅にも使われ普及していますが、古代では寺院や役所といった建物にしか使われておらず、特別な建築素材でした。

牛田廃寺跡でも大量の瓦が出土していますが、古代の一般住宅が茅葺きや板葺きであった中で、寺院の瓦葺きの屋根はとても目立ち、特別な建物であることを強烈に誇示していたと思われます。

藤岡市では瓦生産が盛んで藤岡瓦が有名ですが、1000年以上前から瓦が作られていたことはあまり知られていません。古代において瓦生産を行うには、粘土が豊富に採れることや燃料となる薪が大量に採取できることなど自然条件が重要でした。藤岡市には藤岡粘土と呼ば



- 発見されている古代の瓦窯跡
- 古代寺院

れる粘土が地中に大量に存在し、南西部には豊かな奥深い山林が広がり、瓦生産には好適な場所でした。さらに神流川や鮎川といった河川にも近く、焼いた瓦を運ぶのにも便利だったのでしょう。

藤岡市教育委員会が実施した発掘調査の結果、藤岡市下日野・金井で瓦や須恵器を焼いた大規模な窯跡群が見つかりました。また下日野・金井から続く高崎市吉井にも多数の窯跡が見つかりました。牛田廃寺跡で見つかった瓦と比較したところ、同じ特徴が見られ、下日野・金井で焼かれたことがわかりました。さらに藤岡の瓦は高崎市・前橋市にある上野国分寺跡にも供給されています。国分寺建立は日本で最初の国営事業と言われており、その建設に藤岡で生産した瓦が使われ、古代藤岡の瓦産業が重要な役割を担っていました。



藤岡市下日野・金井で見つかった窯跡

先史時代から続くモノ作り

藤岡市では、瓦生産以外にも縄文時代の石棒・石剣や古墳時代の埴輪・石製模造品など、モノ作りが先史・古代から盛んでした。藤岡で採れる自然の素材を使って時代にあった製品を作り、藤岡市の外に広域に流通させていたことがこれまでの研究でわかっています。

歴史的な流れの中で見ると、藤岡はエンジニアの系譜であると言えるかもしれません。清温育を生み出した高山長五郎翁や零戦を開発した堀越二郎氏なども、縄文時代から続く藤岡のモノ作りの歴史という視点で見ると、その系統が現代まで連綿と続いていると言えるでしょう。

回 覧



令和元年度

牛田・川除地区発掘ニュース

令和元年度 最終号

通算 22 号

うしたはいじあと

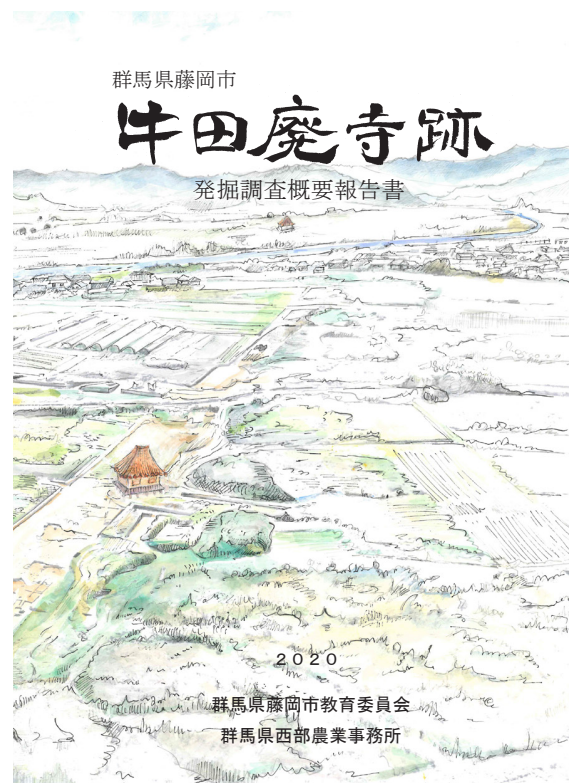
★牛田廃寺跡の概要報告書を刊行します★

早いもので3月になり、令和元年度の「牛田・川除地区発掘ニュース」は、今年度はこれで最終号となります。来年度も発掘調査が始まる頃にニュースを刊行していく計画です。

昨年度、発見された牛田廃寺跡の発掘調査概要報告書が、3月に刊行されます。藤岡市にとって非常に重要な遺跡であるため、正式な報告書刊行前に成果を広く皆様に知っていただくため、牛田廃寺跡の概要について紹介した報告書を作成しました。

一般頒布や販売は行っておりませんが、4月頃に藤岡歴史館や図書館、市内の公民館などに配布する予定です。

報告書なのでやや専門的な内容となっていますが、牛田廃寺跡の現時点での成果の一部をご覧ください。機会



牛田廃寺跡 概要報告書 表紙

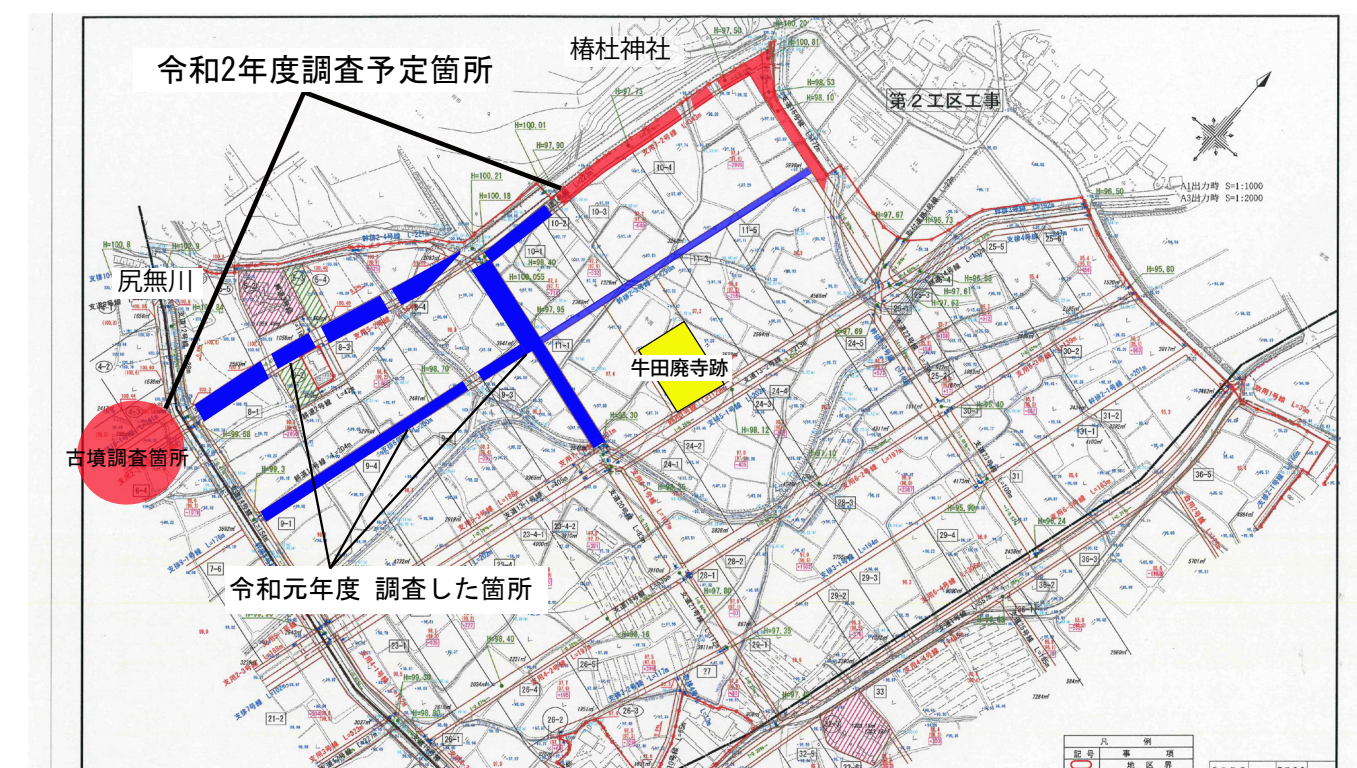
があれば是非お手にとってご覧ください。

★令和2年度の調査予定について★

令和2年度も牛田川除地区基盤整備事業に伴って発掘調査を実施する計画です。来年度は古墳と椿杜神社下の道路建設部分について調査を実施する計画です（下記地図の赤く塗ってある場所）。

調査計画は今後変更になる可能性があります、またこのニュースで逐次お知らせしていきたいと思います。

1年間ご愛読ありがとうございました。来年度もよろしくお願い申し上げます。



令和2年度の発掘調査予定の箇所

牛田川除地区発掘ニュース 最終号 通算 22 号
令和2年3月1日
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課
埋蔵文化財係 担当：文挾
藤岡市白石 1291-1（藤岡歴史館内）
TEL:0274-23-5997